

寛永文化講座



第9回

花洛の装い — 東福門院の豪華な「きもの」—

講師 河上繁樹(大阪学院大学国際学部教授)

いよいよ4月に寛永行幸四百年祭がスタートいたします。
直前となる3月の「寛永文化講座」では、

後水尾天皇のもとへ入内した徳川秀忠の五女・徳川和子まきこをとりあげます。

後水尾天皇との間に2男5女をもうけ、娘である女一宮が明正天皇となりました。

そんな和子が宮中に持ち込んだ文化の一つが「小袖」というきもの。このことがのちに「寛文小袖」ブームを巻き起こします。

いわば和子は現代でいうファッショナリーダーでもあつたのです。



寛永文化講座とは?

2026年は、寛永3(1626)年に後水尾天皇が二条城に行幸されてから400年の節目の年です。寛永時代は能、狂言、茶の湯といった文化が隆盛し、市中にいくつもの「サロン」が形成されました。このサロンを舞台に文化が洗練され、多くの人々をひきつけ、現代へとつながることから「寛永は文化の故郷」といわれています。「寛永文化講座」は、この時代に花開いた文化の特質をさまざまなジャンルの専門家に語っていただき、多角的な視点から寛永文化の総合性や現代における意義を考えていこうというものです。

「寛永行幸四百年祭」を応援したい!

基金で応援

京都文化交流コンベンションピューロー
「寛永 1626 基金」で
寄付を募集しています。

ふるさと納税で応援

京都府の
企業版ふるさと納税による
寄付を募集しています。

連携・認定事業で参加

「寛永」をテーマにした独自事業や関連行事を
実施していただける企業・団体を募集しています。
お問合せ: info@kaneigyoko400.jp

主催 対応委員会
(文化庁連携プラットフォーム内)
<https://kaneigyoko400.jp/>

共催 Living History KYOTO
Living History in 京都・二条城協議会

最新情報は
公式HP・SNSで
チェック!



公式 HP



FACEBOOK



Instagram



X

元和6(1620)年、14歳で後水尾天皇のもとへ入内し、江戸初期の宮廷と幕府のかけはしとなった徳川和子(後の東福門院)。寛永のころ、女院の御所の好みで始められたという御所染は、宮廷の女性ばかりではなく、京の市中や田舎にまで広がりました。東福門院は京都の呉服商雁金屋に小袖を注文しましたが、50代半ばのころには1年間で170枚余りにも及びました。それらの小袖は当時の最高級品でした。現存する雁金屋の史料から東福門院の好んだ小袖について考察します。



野村正治郎衣裳コレクションのうち
黒縞子地斜格子菊吉祥文模様絞腰巻
(国立歴史民俗博物館所蔵)

河上 繁樹氏 プロフィール



1956年大阪生まれ。文化庁美術工芸課、京都国立博物館、関西学院大学教授を経て現職にいたる。日本および中国の染織・服飾史を研究。京都国立博物館在任中には特別展『花洛のモードーきものの時代』を企画。江戸時代前期の小袖復元研究にも取り組む。近著に『装いの美術史-織りと染めが彩なす服飾美-』(思文閣出版)がある。

2026年 3月15日(日)

14:00(13:30開場)

14:00 対応委員会紹介
14:10 河上繁樹氏講演
15:40 終了予定



参加費: 無料

会場: 京都府公館 (京都府立府民ホール アルティ)
京都市上京区烏丸通一条下ル龍前町590-1
(地下鉄「今出川」駅6番出口より南へ徒歩5分)

定員: 70名程度(先着順)

申し込み先: Peatix

このイベントに関するお問い合わせ>
実行委員会事務局
info@kaneigyoko400.jp
TEL.080-9923-4252
(土日祝除く 10:00~16:00)

お申し込みは
Peatixより

X

詳細はこち

絵:「二条城行幸図屏風」部分 江戸時代(京都市指定文化財 泉屋博古館蔵)